

## 研究終了報告書

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）  
（分担）研究年度終了報告書

嚥下障害患者が服用した薬の口腔内、咽頭残留に関する実態調査

研究分担者 戸原玄

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野

### 研究要旨

嚥下障害患者の服薬アルゴリズムの作成のため、嚥下障害患者が服用した薬の口腔内、咽頭残留に関する実態を調査した結果、当研究機関では残薬を認めた患者はいなかった。他研究機関の調査結果を合わせて服薬アルゴリズムを作成、完成させた。

### A. 研究目的

嚥下障害患者の服薬アルゴリズムの作成にあたり、嚥下障害患者が服用した薬の口腔内、咽頭残留に関する実態を明らかにする。

### B. 研究方法

外来診療、訪問診療、入院中で東京医科歯科大学病院摂食嚥下リハビリテーション科を受診した患者30名を対象とした。すべての対象者の年齢、性別、現病歴、介護度、意識レベル、認知症・脳血管障害・摂食嚥下障害および口腔機能障害の程度、口腔乾燥など口腔に関する機能、服薬時の介助の有無、服薬媒体（水、とろみ水、ゼリー、食事、その他）、最終服薬時間、最終服用薬（錠剤、散剤、水剤）、服薬および食事摂取困難感の有無、嚥下障害のグレード（FILS）、日常の食事形態を聴取、診察した。

（倫理面への配慮）

東京医科歯科大学倫理審査委員会に研究計画を申請し、承認を受けたうえで実施した（承認番号D2021-024）

### C. 研究結果

診察時に口腔内の診査、嚥下内視鏡検査を実施した結果、いずれの患者においても服用した薬の口腔内、咽頭に残留は見られなかった。

### D. 考察

当機関では、口腔内および咽頭内残薬を認めた対象者はいなかったが、共同研究施設全体で300名程度の対象者を調査した結果、いくつかの施設で数例の口腔内残留を認めた。残留部位、最終服薬時間や対象者の背景との関連を総括研究報告書にて報告した。

### E. 結論

本研究で得られた薬の口腔内、咽頭内残留のデータと、その他の調査結果の情報をもとに服薬アルゴリズム案を作成し、修正・改良を重ねたうえで、アルゴリズムを完成することができた。

### G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

### H. 知的財産権の出願・登録状況 （予定を含む。）

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし